

石川縦断キャンプACTIVE2017に携わって

昨年度からACTIVEに携わり、今年度は主担当として事業を進めました。昨年度の経験から、事前説明会で参加者の子供たちに課題を出しました。「参加が決まった今、もう一度、『なぜこのACTIVEに参加するのか』を考え、まとめてくること」です。このACTIVEは、敢えて困難な状況を作り出しています。また、初めて会う仲間と過ごすことになります。くじけそうになったり、仲間との関係で悩んだりすることが必ずあります。そんなときに、抛り所となり、また、キャンプが終わった時に自分の頑張りや成長を見つめることにつながると考えたからです。結果、参加者全員でゴールすることができ、閉講式を終え笑顔で自分の生活に戻っていきました。11月になり、2通の手紙が届きました。この報告書にも載せましたが、1通は、自分の夢に向かって生活している様子、もう1通は、このACTIVEの経験で書いた読書感想文で賞を頂いたことでした。ACTIVEが決して11日間で終わったのではなく、その後も確実に参加者の成長につながっていることが分かり、この事業を担当させてもらったことに、関係してくださった皆様のお力に、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました。



国立能登青少年交流の家
企画指導専門職 布施 幸治

石川縦断251km、10泊11日。文字にすると数文字ですが、その行程は子供たちにとって想像以上に長く、厳しいものだったと思います。登山では雨に降られ、サイクリング中は酷暑に見舞われ、能登島選択ルートでは人間関係の摩擦。周りの自然や人と時には寄り添い、時にはぶつかり、様々な状況乗り越える中で、子供たちは少しずつたくましくなっていました。そして最後にたどり着いた禄剛崎。ゴールしたことは嬉しいのですが、終わってしまうことが寂しいような、複雑な感情が子供たちの顔から見て取れました。11日間一生懸命に取り組んだからこそ、それぞれに思うことがあったはず。この先の人生の中でつらい時、壁にぶつかった時、本事業での経験が子供たちの「ねばり強さ」の基礎になってくれることを願っています。最後になりますが、各協力団体の皆様はもちろんのこと、子供たちを送り出してくれた保護者の方々に心から感謝申し上げます。



国立能登青少年交流の家
事業推進係員 川上 元

今年も石川縦断キャンプ「ACTIVE2017」に企画委員として参加させていただきました。2年目ということで、参加する子供たちがより成長できるように、昨年の経験を生かし、計画を立てられていると感じました。今回は、7日目の能登島ロードパークから能登島の松島オートキャンプ場までのサイクリングの行程に参加させていただきました。チームにはここに至るまでに、様々なアクシデントがあったようですが、子供たち、スタッフともに、みんなの力を合わせて乗り越えてきた経験が、本事業のねらいのひとつの「かかわる力」の育成につながっていると、一緒に行動していて感じられました。そんな皆さんと同じ時間を過ごすことができ、また、成長した姿を肌で感じる事ができ、この事業に関わってよかったと思いました。来年は、これまでの経験を生かし、今年以上に子供たちの成長を感じられるものになると期待し、微力ながら協力させていただきたいと思っております。最後に、全行程を子供たちとともに参加し、子供とともに大きく成長したボランティアスタッフのみなさん、本当にお疲れ様でした!!



石川県教育委員会生涯学習課
社会教育主事 南川 順一

18名の子供たちが、4時過ぎから続々と能登少年自然の家に到着し始めました。疲れの見える子、まだまだ余裕のある子、到着して安心している子、それぞれに満足感を漂わせてこのキャンプ最長の行程をやりきった自信が顔にでていました。参加者の中には、何回も能登少年自然の家を利用している子もいて、うれしそうに話しかけてくる子もいました。滞在2日目は、「大型カヌー」の活動をしました。さすがに体力差が出始めてきたのか、漕ぐ力にも差が出ていました。この日は波と風が少し有り、条件的にはあまりよい日ではありませんでしたが、全員で協力し合い予定のコースを回ることができました。翌日、最後のサイクリングに出発する様子から、来た時よりも逞しさを感じて見送りました。(大型カヌー指導:小原正義)



石川県立能登少年自然の家
課長補佐 奥 敏彦

日常からワクワクドキドキ体験をする『ACTIVE2017』。サポートした6日間は、子供たちと共有したさまざまな感動と思い出でいっぱいです。みんなで立った白山の雪渓、雲海に浮かんだ山々から昇るご来光、満天の星空と流星群、力強く生きる高山植物など、子供たちは自らの身体をとおして、故郷石川県の自然の大きさと素晴らしさ、また厳しさを感じ取ったことでしょう。11日間協力しながら活動中、お互いを思いやり励まし合う姿も見られ、今後も子供たちの成長と可能性が楽しみです。また他施設職員、ボランティアスタッフに親身にお世話いただき、心より感謝しております。ありがとうございました。2年間ACTIVEに関わり、改善すべき点・工夫できる点をふまえ、来年度に生かしたいと思っています。



石川県立白山青年の家
専門員 前川 佳津行

「石川縦断キャンプACTIVE2017」の最初の活動である「白山登山」、「イワナつかみ」が白山ろく少年自然の家を中心に実施されました。私は、「白山登山」には参加しませんでした、予定通り実施でき、下山した子供たちの表情からも充実した活動ができたのではないかと思います。最終日の活動である「イワナつかみ」の活動は、白山ろく少年自然の家で一番の人気プログラムです。自然の渓流を使ったこの活動は、他の施設ではあまり体験できない活動であります。子供たちは、真夏とはいえ20度以下の冷たい水温に驚きながらも積極的に活動していました。その中で、自分たちでとったイワナを食べながら「命の大切さ」も感じ取っていただけたのではないかと思います。この企画は、白山の頂上から能登の最先端の禄剛崎までを11日間かけて走破する大きなイベントです。このイベントを通じて大きな感動や生きるための活力がつけてもらえればと思います。参加の子供たち、お世話されたスタッフのみなさん大変お疲れ様でした。また、機会がありましたら白山ろくへおいでください。



石川県立白山ろく少年自然の家
社会教育主事 中川 恭昌

10泊11日の長期キャンプ「ACTIVE」をとおして、出会いの大切さを感じました。初めて出会った事前説明会ではみんな緊張して、子供同士の会話や関わりはあまり見られませんでした。10泊11日の行程をこなしていくうちに一人一人がお互いを一つの目標に向かって進む仲間として感じていく様子が伝わってきました。登山行程では「もうちょっとやがんばれ〜」サイクリング行程では坂道を登っているときに「負けるな〜ファイト〜」など鼓舞し合って立ち向かっていく姿を見ることができました。10泊11日をとおしてチームとして成長してだけでなく、一人一人の成長も感じました。学校や地域で活動するだけでなく、キャンプのように普段の生活では出会うことがなかった人と出会って活動することで、新しい自分を見つけることができると思いました。

今回が私にとって2回目の長期キャンプでしたが、前回と変わらず不安を抱えてのスタートとなりました。自分の中で「4年生だから…」と勝手に気負いして、体力的にも気持ち的にもしんどく感じた時がありました。しかしこの時私の支えになったのは子供たちのひたむきに頑張る姿と、ボランティアスタッフの存在でした。「ちょこみも頑張れ」と子供から応援してもらったこと、ペアのスタッフと毎晩遅くまで話して悩んだこと、毎晩寝る前に同期と「ACTIVE!!!」と握手を交わしたことなど、すべての出来事が私の宝物です。「頑張る」と言うことは簡単ですがやるとなると本当に大変で、何度も心が折れそうになります。それでもやり抜くことができたのは「仲間」がいたからではないでしょうか。学生最後の長期キャンプでこの仲間たちと出会い、仲間の存在の大きさを

再確認できたことと、全員で禄剛崎に行けたことを本当に嬉しく思います。子供たちもこの経験を自信に様々なことにチャレンジしてたくましく成長してほしいと願っています。



ボランティアスタッフ
谷内 昌樹



ボランティアスタッフ
鎌田 美沙都

今回初めての参加で、不安なスタートでした。しかし子供たちとの対面の時、皆のキラキラした顔を見るとこれからどんな表情を見せてくれるのか、また感動を共有できるのかが楽しみになりました。白山登山では、昨日会ったばかりの子供たちが協力し合い、山頂を皆で目指すという一つの目標に向かって進んでいる姿を見て私も頑張ることができました。長距離サイクリングを終え能登の先端にゴールすると子供たちは初めて会った時とは見違えて、自信に満ち溢れた表情をしていたのが印象的です。このキャンプ中に、仲間と協力することの大切さ、困難にどう立ち向かい乗り越えた先に見えるものが何か、身をもって分かったからだと思います。一番印象に残っているのは、ボランティアの私達のことを気遣い、時には心配してくれ、感謝の気持ちを伝えてくれたことです。ここで得たものをかけがえのない財産として生かして欲しいです。私自身も、成長することができました。班つきボランティアとして、子供たちに指示し、その上で子供たちが主体的に行動できるように支援するという課題

正直、私はこの11日間のスケジュールは小学生の子供にはきつすぎるのではないかと考えていました。どれだけ登っても頂上の見えない山道、アップダウンの激しい地獄のような坂道、仲間と協力しあって進む能登島選択ルート。パワフルな子供たちもさすがに弱音を吐いてしまうほどきつい毎日でした。しかし、大きな山を1つ越えるごとに子供たちは少しずつ強く、たくましく、優しくなっていくのです。小さな体で歯を食いしばって体を前のめりにして、目に涙を浮かべながら、懸命に坂道に食らいつくのです。そんな子供たちの姿が頭に焼き付いています。私は最後尾でそんな姿をずっと見ていました。「がんばれ!!」「あともうちょっとだ!!」と初めはボランティアがしていた声掛けを、いつの間にか子供たちが自分からするようになり、ひとつ大きな山を乗り越える度にみんなで大喜びしていました。それも自分に負けない強さ、仲間を思いやる優しさがこの11日間で生まれたからだと思います。この11日間は私にとっても大変有意義な時間で、こんなに人を思いやり目標に向かって全力になった熱い夏は初めてです。ここで

出会った子供たち、職員さんに感謝しかありません。ACTIVEは私や子供たちにとって、人生を変えるきっかけになるキャンプだと感じました。



ボランティアスタッフ
山本 千絵



ボランティアスタッフ
三田村 新愛